

【短報】

小・中・高等学校の授業で解剖をした経験 —山口大学教育学部学校教員養成課程の学生を対象として—

佐伯英人¹

¹〒753-8513 山口市吉田 1677-1 山口大学教育学部理科教育講座

鳩貝 (2008) は、中学校の理科担当教員と高等学校の生物担当教員を対象とし、授業で解剖実習を行った経験などについて質問紙法を用いて調査した。その結果、中学校教員では半数近くが、高等学校でも3割ほどが、全く解剖実習を行っていないことが明らかになった。このことから、授業で解剖をした経験が一度も無い学生の存在が推察された。本調査の目的は、山口大学教育学部学校教員養成課程に在籍している学生の解剖経験の実態を明らかにすることである。

調 査 方 法

小・中・高等学校の授業で解剖をした経験の有無、また、解剖実習で用いられた教材について質問紙法を用いて調査した。調査年は2007年であり、調査対象者は山口大学教育学部学校教員養成課程63名(男性29名 女性34名)とした。調査対象者の学年は1年生12名、2年生39名、3年生8名、4年生4名であり、所属は理科教育選修27名、非理科教育選修36名であった。

結 果

小・中・高等学校の授業で解剖をした経験の有無 調査対象者全員(63名)から回答を得た。解剖経験者を学年別にみると、大学1年生では2名(高等学校:2名)、大学2年生では10名(小学校:4名,中学校:5名,高等学校:6名)、大学3年生では1名(小学校:1名)、大学4年生では1名(中学校:1名)であった。また、解剖経験者を所属(選修)別にみると、理科教育選修では4名(小学校:1名,中学校:1名,

高等学校:2名)、非理科教育選修では10名(小学校:4名,中学校:5名,高等学校:6名)であった(表1)。

小学校から高等学校の授業を通してみると、解剖をした経験が一度でも有る学生は14名、経験が一度も無い学生が49名(理科教育選修:23名,非理科教育選修:26名)であった。小学校から高等学校までのすべてで解剖をした経験が有る学生は0名であった(表1)。

解剖実習で用いられた教材 小学校の授業で解剖をした経験が有る学生は5名であり、解剖実習で用いられた教材は、いずれもフナであった。中学校の授業で解剖をした経験が有る学生は6名であり、解剖実習で用いられた教材は、カエルが2名、ブタやウシの眼球が4名であった。高等学校の授業で解剖をした経験が有る学生は8名であり、解剖実習で用いられた教材は、カエルが2名、ネズミが1名、ユスリカの幼虫が1名、ブタやウシの眼球が3名、ニワトリの頭部が1名であった(表2)。

論 議

鳩貝 (2008) は「解剖実習は視聴覚教材では得られない学習効果を上げることができ、生命尊重の心や態度の育成に果たす意義が大きいことは明らかである。」と述べ、解剖実習の有効性を示している。しかし、調査対象者63名中、小学校から高等学校の授業を通して解剖をした経験が一度も無い学生が49名(理科教育選修:23名,非理科教育選修:26名)存在し、解剖未経験者の多さが浮き彫りとなった。こうした実態を踏まえ、各教育課程(小・中・高等学校)の

表1 解剖をした経験が有る学生の内訳 (数字は学生の人数)

教育課程	調査対象者の大学における学年				調査対象者の所属(選修)	
	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	理科教育	非理科教育
	12	39	8	4	27	36
小 学 校	0	4	1	0	1	4
中 学 校	0	5	0	1	1	5
高等学校	2	6	0	0	2	6
小学校～ 「一度でも」	2	10	1	1	4	10
高等学校 「すべてで」	0	0	0	0	0	0

※小学校～高等学校の「一度でも」の人数には、各教育課程における経験者の重複を含む

表2 解剖実習で用いられた教材 (数字は学生の人数)

教 材	教 育 課 程		
	小 学 校	中 学 校	高等学校
	5	6	8
フ ナ	5	0	0
カ エ ル	0	2	2
ネ ズ ミ	0	0	1
ユ ス リ カ の 幼 虫	0	0	1
ブ タ や ウ シ の 眼 球	0	4	3
ニ ワ ト リ の 頭 部	0	0	1

授業内容について、あらためて議論する必要があると考えられる。この議論をするにあたっては、小・中・高等学校における解剖実習の実態をより詳細に明らかにするとともに、先に報告したように(佐伯, 2007), 学生の意識に及ぼす影響といった視点からの研究も必要と思われる。

また、鳩貝(2008)は「解剖実習を生命尊重の教育と関わらせる指導を充実させるための教員研修を推進する必要がある。」と述べ、教員研修の方向性を示している。本研究の調査対象者はいずれも教員を志望しており、数年後には教員となっていることが想定される。今回の調査結果をふまえ、大学の教育課程において鳩貝のいう方向性で教育を推進し、学生が教員になったときに生命尊重の教育ができる力量を形成していきたい。今後、教員養成課程における講義や演習の内容について検討していく予定である。

謝 辞

御指導・御助言いただきました国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部総括研究官の鳩貝太郎氏に感謝の意を表します。

引用文献

- 佐伯英人, 2007. 解剖に対する学生の意識. 第56回日本理科教育学会中国支部大会研究発表論文集: A9.
- 鳩貝太郎, 2008. 生物教育における生命尊重についての指導観と指導法に関する調査研究. 平成17年度～19年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書. 247pp.

(南予生物 15: 37-38, 2008年1月26日受付)

連絡先 佐伯英人(〒753-8513 山口市吉田1677-1 山口大学教育学部理科教育講座)